



大友 又治 議員

6人が登壇

林業の振興で町の活性化を

真室川町森林整備計画の検証と積極的な展開を

町長

関係機関・業者等と協議し体制を整備する

議員 路網の整備、間伐材の利用促進施策を。町長 「路網の整備」は、受益者や地権者の理解を得ながら順次整備していきたい。

議員 公共施設の木材利用や木質バイオマス利用促進を。町長 梅里苑施設への「間伐材を利用したトロッコ列車の駅舎等の建設、林間にツリーハウスやパーゴラを設置して、癒しの空間を演出しながら木材利用を」の提案について、費用対効果等検討する。今年度中に、梅里苑に本格的な木質チップポイラーを設置すべく、事業を展開している。旧及位中学校校舎の

利活用として、民間事業者が木質バイオマスエネルギーを使った産業施設を目指している。

議員 木質チップ、薪等の安定供給体制は。町長 現在総合支庁を中心に、「最上地域木質バイオマス燃料供給体制整備協議会」(会長・最上広域森林組合長・佐藤景一郎氏)及び「木質バイオマス利用検討委員会」(座長・森総合支庁森

林整備課長・佐藤恒治氏)も立ち上がった。先進事例の研究・安定供給体制に向け論議を進める。

議員 うるし振興事業の今後の位置付けは。町長 漆器生産は町内で独立営業の塗師を支援する。

「漆液採取」と掻き殺しによる萌芽更新の促進、併せて掻き子を養成し、「植栽・管理・収穫まで漆生産技術の再構築」を図る。



完成が待たれる梅里苑木質チップポイラー

総合支庁森

他の質問

●森林環境教育や森林ボランティアの育成支援を

高齢者の社会参画と町づくり

- 一、見守る・助け合い支援の住民公開掲示板をつくるべき
- 二、安心・安全見守り台帳を作成し、緊急時の支援ツールとして活用してはどうか



外山 正利 議員

町長

町民が安心して暮らせる町づくりをめざし施策・事業を検討する

議員 当町の65歳以上の人口は今年度で3,029人で高齢化率33.3%で国・県の高齢化比率を大幅に超え超高齢化の町です。高齢者の町づくりを早急に取り組むべき。町長 町として、先に策定した「第2次ヘルシースマイル21真室川計画」に基づき、各種健康づくり施策の推進を図り、地域包括支援センターを中心に推進している。

システムを運用し、昨年、75歳以上の高齢者を皮切りに支援台帳の整備に着手した。今年65歳以上と障がい者に範囲を広げ、本人の希望による手挙げ方式で登録申請をお願いしている。(現在582人なっている)

議員 災害発生時の緊急のツールとなる安心・安全見守り台帳と「総合システム」の構築が必要と思うが。町長 災害時要援護者整備を進めている。又、支援に必要な情報を「要援護者支援システム」に入力し、データベース化している。

緊急搬送先での診断・治療の手掛かりとして活用された。**議員** 福祉計画を進める上で個人情報保護の問題点は。町長 災害対策基本法では自主防災等に情報提供出来るようになった。その他は同意を頂いている。

議員 見守り・助け合い支援の住民公開掲示板をつくるべき。町長 要援護者支援シ



誰もがいきいきと参加できるまちづくり

議員 現在取組中の緊急医療情報キットに対する町民の反応は。町長 要援護支援台帳登録支援のため、また、緊急搬送時に、救急隊員がこのキットにより



高まりつつある自主防災組織